

赤十字NEWS

March 2017 Vol.922
<http://www.jrc.or.jp>



人間を救うのは、人間だ。 日本赤十字社

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



「私たちは、忘れない。」特集 育ててくれた 海への恩返し

「若い人が魅力を感じるような漁業をやっていききたい」と語るのは宮城県女川町の鈴木公義(きみよし)さん。女川湾の桐ヶ崎漁港周辺でカキの養殖やいわし漁を営んでいます。津波で自宅と漁業資材のほとんどを失い、再開までにはカキで1年、いわしはさらに3年がかかりました。「いろんな支援にも支えられたし、使命感もありました。海に育てられた人間として、簡単には投げ出せないという気持ちかな。6年はあつという間でしたね」と震災後の日々を振り返ります。今、水揚げ量は震災前の水準に戻り、去年は自宅も再建しました。しかし、10年後、20年後の展望は決して明るくないといいます。「町に残っている多くは高齢者。いま俺たちが漁業を通じて豊かになり、かっこいい姿を示すことが、若い連中を女川に戻すことにつながるはず」。船の操舵輪を握るこぶしにも力が入ります(撮影:遠藤康夫)。

CONTENTS

SPECIAL

2 3

「私たちは、忘れない。」
阪神・淡路大震災、
東日本大震災、熊本地震
被災者や支援に携わった人の声

SPECIAL

4 5

災害の教訓を未来へ生かす
●私たちが防災教育に取り組む理由
●災害に対応する力を地域ではぐくもう!
「私たちは、忘れない。」イベント情報

AREA NEWS

6 7

北海道・栃木・神奈川
石川・福井・熊本・大分
血液事業本部 災害対応訓練
日本宝くじ協会 献血バス8台寄贈
平成28年熊本地震災害 義援金情報
健康豆知識 女性に多いドライアイ
常任理事会開催報告
Voice&プレゼント

WORLD

8

「海外たすけあい」に全国から6.3億円
寄付総額使用計画
中東紛争地で赤十字スタッフが相次いで殺害
I am #NotATarget
連載 人道支援の現場から⑧
国際赤十字・赤新月社連盟
アジア・大洋州事務所 組織強化担当
赤松 直美



今月の 出 会 い



株式会社 伊藤園 広域法人営業一部
第四課 グループリーダー
高見 啓さん

今年も走ります。 「忘れない。」ステッカー付営業車

昨年3月から始まった日本赤十字社の「私たちは、忘れない。」プロジェクトに賛同し、営業トラックに「忘れない。」ステッカーを貼った伊藤園。2580台のトラックが全国津々浦々を走りました。走行距離の合計は1カ月に地球50周分超に。取引先企業などから多くの問い合わせや反響が寄せられたといいます。高見さんはこの取り組みの中心を担いました。

「被災地を応援したくても、何をしたらいいのかわからない企業は多いんです。日赤さんのプロジェクトは、私たちがその一歩を踏み出した、防災対策を再確認したりするきっかけにもなります」

プロジェクトへの賛同は、伊藤園の取引メーカーや関連会社にも広がりましたが、その先頭に立ったのも実は高見さん。「営業の合間に少し

ご紹介するところから始めましたが、仕事以上に説明に熱が入ってしまったかな…」と苦笑します。昨年と今年で12社の協力を取り付けました。

「社会貢献活動に昔から関心がありました。数ある支援団体の中でも、日赤さんの活動には日頃から注目していました。特に災害時の活動では頼りになる存在だと思っています。弊社は今年もステッカーを貼ったトラックを全国で走らせ、本社職員がバッジを着用しますが、より多くの企業がプロジェクトに賛同し、防災で手を結ぶようになるとうれしいですね」

PROFILE

昭和54年宮崎県生まれ。平成14年に株式会社伊藤園に入社。九州各地での営業を9年間経験した後、本社営業部へ。伊藤園は赤十字支援マーク付の自販機を全国に設置し、売り上げの一部を活動資金として寄せるなど日頃から日赤を支援しており、高見さんは全国初のハートラちゃんマークを付けた寄付付き自販機の設置などを担当した。おすすめの飲料水ブランドは「お〜いお茶」と「タリーズ」。

私たちは、忘れない。

日本は世界でも有数の自然災害多発国。巨大地震や水害などにいつどこが襲われても不思議ではありません。だからこそ、過去の災害経験をそれぞれの立場で思い起こし、防災や復興へとつなげていくことが求められています。日本赤十字社の取り組む「私たちは、忘れない。」(3月1~31日)は、そうしたきっかけづくりを目指すプロジェクトです。阪神・淡路大震災や東日本大震災、そして昨年の熊本地震。被災者や支援に携わった人は、自らの経験をどのような一歩へとつなげたのでしょうか。5人の方に話を聞きました。



「過去の経験にとらわれない 防災意識を」

市宮鶴ヶ谷住宅自治会会長、柏建設代表取締役
加納 政市さん



宮城県多賀城市内で土木建設会社を営む。津波で自宅兼事務所を失い、約5年にわたり仮設住宅に入居。昨年4月に同市内の災害公営住宅に転居した。仮設住宅時代から現在まで継続して自治会長を務めている。

「過去の経験にとらわれない防災意識を」ということでしょうか。東日本大震災でも「チリの時はここまで来なかったから」と逃げ遅れた人が大勢いました。私自身、過去に津波を経験していましたが、今回初めて怖いと感じました。経験を越えることがあることを忘れないことです。これからだつて東日本大震災より大きい津波がくるかもしれないんです。

防災で気をつけなければいけないのは、過去の経験に頼り過ぎないということでしょうか。東日本大震災でも「チリの時はここまで来なかったから」と逃げ遅れた人が大勢いました。私自身、過去に津波を経験していましたが、今回初めて怖いと感じました。経験を越えることがあることを忘れないことです。これからだつて東日本大震災より大きい津波がくるかもしれないんです。

仮設住宅に入居した当初は、一緒に助け合う気持ちがあんなにありました。でも、時間の経過とともに、なかなか外に出ない人も増えてきましたね。それでも仮設の場合は、玄関が閉じていても、様子がおかしかったら窓の方に回って中をうかがうこともできます。ところが災害公営住宅は鉄筋コンクリートの団地で、外からは見えません。本当に孤独死などが心配です。自治会としても、目配り、気配りを大切に行っています。いろいろな支援団体がコミュニケーションのためのイベントを開催してくれまして、そうした場も大切だと思っています。



「心からの 笑顔を撮りたいね」

石巻蟹田自治会会長、丸道写真館代表取締役
遠藤 康夫さん、智子さんご夫妻



震災で宮城県女川町の自宅と写真館を失った遠藤さん。現在石巻市内にある女川町の仮設住宅の自治会長を務めるとともに、石巻市内で写真館を営業している。

震災の後、被災地や被災者の記録を撮って欲しいと県外から依頼されたことがあるんです。でも、カメラは向けられなかったな。どの人も、全てを失い本当にみじめな思いの中で生きていた。あの時のみんなの表情…。当時は大勢のカメラマンが来て、中には被災者の笑顔を撮るような人もいました。だけどあの時、心からの笑顔が被災地にありましたか？ それすら分らない人たちが撮っていた。違うと思いましたが。

私も石巻の店舗の機材を津波で全部失いました。女房には廃業も勧められたけど、好きで始めた仕事。客足は3分の1に落ち込みました。撮影した写真を手渡し、喜んでくれるお客さんの顔を見ると、再開して良かったと思います。とはいっても、被災者が抱える問題の本質は6年後の今も変わってないかもしれません。被災地の経済がうまく回っていないんです。若い人は都会に出て、残っているのは高齢者…。みんなに余裕がなくなっていました。

もちろん、日本と世界の皆さんからたくさん支援を受け、被災者には少しずつ笑顔が戻っています。本当に感謝です。今も機会があるごとに、心のポケットにしまっている御礼の言葉を取り出しています。また、昨年の熊本地震のように、震災は人ごとではありません。御礼とともに、そのことも声を大にして言いたいですね。

広告



社会福祉法人 黎明会 (公社) 全国有料老人ホーム協会正会員

介護付有料老人ホーム

熱海 ゆとりあの郷

雄大な眺望と温暖な風土のもと、心豊かに暮らす…

「熱海ゆとりあの郷」には、ほんものの豊かさ、心の安らぎがあります

特別見学会の日程

3月 7日(火)、16日(木)

4月 11日(火)、17日(月)、27日(木)

熱海ゆとりあの郷に住まう魅力

歴史ある社会福祉法人が経営母体
温暖な気候・絶景の眺望
24時間365日 医師・看護師が常駐
自慢の自家温泉
暮らしの多様なサービス
安心の「終のすみか」

熱海ゆとりあの郷「東京入居相談室」

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル東館2階

検索 熱海 ゆとりあ ホームページ <http://www.yutoria.net>

見学の申込みや問い合わせは、下記フリーダイヤルまで。

フリーダイヤル

0120-058-211 受付時間/9時~17時
月曜~金曜

●所在地/〒413-0038 静岡県熱海市西熱海町1丁目24番1号 TEL.0557-81-2322/FAX.0557-82-5260
●交通/新幹線・東海道本線熱海駅下車 熱海駅から専用マイクロバス運行(約15分) ●類型/介護付有料老人ホーム(一般型
特定施設入居者生活介護) ●居住の権利形態/利用方式 ●利用料の支払い方式/一時金方式 ●入居時の要件/入居時
自立 ●介護保険/静岡県指定介護保険特定施設(一般型特定施設) ●介護予防特定施設 ●介護居室区分/全室個室 ●一般
型特定施設である有料老人ホームの介護にかかわる職員体制/2.5:1 以上



阪神・淡路大震災を体験。
防災教育の機会を広げることが目標

「学びこそが防災の力」

NPO法人さくらネット 兵庫県立舞子高等学校
河田 のどかさん 加藤 昌也さん



小学校1年生の時、阪神・淡路大震災を神戸市内で体験。兵庫県立舞子高等学校環境防災科で防災について専門教育を受け、大学卒業後、NPO法人「さくらネット」に勤務。現在、防災教育の普及に取り組んでいる。

防災教育や震災体験の語り継ぎを進める上で、震災体験の有無は壁ではないと思っています。もし体験が必須ならば、語り継ぎはいつか消えてしまいます。
そうした問題意識の下、私の出身高校では震災体験を聞き取り、語り継ぐ活動を行うチームがあります。体験を話してくれない人も多いのですが、1年生の加藤昌也さんは「断る人も含めて、たくさんの人と出会うことが大切」と語っています。その通りだと思えます。22年経っても話せない人がいることも、語り継ぐべき大切な事実なのです。
さくらネットが事務局を務める「ぼうさい甲子園」は、各校の防災活動を発表し合う場ですが、出場する多くの生徒たちにとって、活動の出発点は「災害だけではありませぬ」。この街が好き、地域の人が好き」ということが活動の原点になっています。こうした生徒たちの存在は「学びこそが防災」ということを私に教えてくれました。
防災に熱心に取り組む学校がある一方で、「防災教育で何をすべきか分からない」という声もよく耳にします。地域や学校などで、防災教育の取り組みに格差が生まれているのです。すべての子どもたちが自分と周りの大切な人の命を守っていける大人に成長できるように、防災教育の機会をもっと広げていくことが私の目標です。



熊本でボランティア活動に従事

「今が未来へのスタート」

熊本県青年赤十字奉仕団
平塚 友彬さん (大学3年生)



平塚さんをはじめとする熊本県青年赤十字奉仕団のメンバーは、震災当日から熊本県支部に泊まり込み、全国から集まった救護班の避難所への誘導や救援物資の搬出などのボランティア活動に従事した。

僕たちは特別なスキルを持っている奉仕団ではありません。だからこそ、臨機応変にできることをやっていこうと考えました。支部に行つたのも、「雑用でいい。何かの役に立てるはず」という気持ちでした。
「熊本には地震がない」と言われていたのですが、僕たちの奉仕団は東日本大震災後、意識して災害学習や防災訓練を重ねてきました。震災後すぐに動けたのは、こうした備えがあったからだと思っています。
でも訓練と実際は違いました。訓練は自分たちの組織内で完結しますが、実際の現場では大勢の方とつながっていくことが大切。また、自分たちから歩み寄ることで、周囲から情報が集まってきたり、アドバイスをいだけたりすることも学ばせていただきました。
震災経験を踏まえて昨年度、九州各県の青年奉仕団は初の合同防災訓練を行いました。その中で新たなつながりが生まれたと実感しています。僕個人も救急法救急員の資格を取るなど、より積極的になりました。
こうした活動に取り組むのは、「災害があつて、復興して、それで終わり」にしてはならないからです。未来を見据えて、災害を防ぐためのスタートは今だと思えます。そのために僕は、忘れませぬ。あの経験を。



いわき市内で浪江町民の健康調査を実施

「被災者の声を 将来の救護に生かしたい」

高槻赤十字病院 (大阪府) 看護師
吉田 奈々子さん



原発事故により全町避難となった福島県浪江町。日本赤十字社は、いわき市へ避難している同町民の健康調査・支援活動を震災翌年から今年3月まで継続。看護師らを派遣し、避難者からの聞き取りなどを行ってきた。

私がお会いしたほとんどの方は「生活は落ち着きました」と話されます。でも、震災から時間が経過した分、問題が潜在化しているように感じました。
いわき市に新たに家を建てた90歳の女性は、近所付き合いもなく、ほとんどの時間を一人で過ごしています。明るく対応してくれましたが、「テレビを見てても、涙が出てくるの。眠れないことも…」とこぼします。
原発避難者であることを知られるのを嫌い、近所付き合いを避ける方も目立ちました。私が伺うとせきを切ったように話し出す方もいます。孤独感の裏返しだったかもしれません。
浪江町の一部は、今月末に避難指示が解除される見通しですが、皆さん「帰りたいけど難しい」と口をそろえます。買い物やライフラインの問題だけじゃありません。自分だけが帰っても暮らせません。隣や近所さんは戻つてくれるのか——この点を本当に心配されていました。
復興には長い年数が必要だと思います。風化しつつある問題を私自身が忘れないようにしていきたいし、周囲にも伝えていきたい。そして今回、被災者の生の声を聞いた経験を、看護師としての仕事、将来の災害発生時の救護班活動につなげていかなければと感じました。



災害に対応する力を 地域ではぐくもう！

災害対策基本法に基づく指定公共機関に位置づけられている日本赤十字社は、災害時の救護活動に協力する責務を有しています。しかし、災害が発生してからでは救える命に限りがあります。防災教育の普及で地域住民の防災意識を高めていくことは、「災害からいのちを守る日本赤十字社」として重要な取り組みの一つです。



カリキュラムイメージ図

- 【災害エスノグラフィ】**
過去の災害での被災者インタビュー記録を通じて、被災の具体的なイメージを把握・理解
- 【災害向上訓練（DIG）】**
地域内の防災上の資源や危険場所、要配慮者の所在地などを、地図を用いて把握
- 【他（その他）随時導入】**
- 【応急手当など】**
●一次救命措置（心臓蘇生法とAED）の使用方法、傷病者の搬送方法等を習得
●地震により倒壊した建物から身を守るものを利用した被災者救出方法などを習得
- 【災害への備え】**
災害、防災について考える方法、災害別の想定される被害、平時の備え（自助・共助）を理解

あなたの街で災害が発生したら——予想される被害や救助活動、避難生活などの課題を具体的にイメージしながら、命を守るさまざまな方法を学ぶのが赤十字防災セミナーです。4月から各都道府県支部で順次展開が始まります。

赤十字防災セミナー 今年4月から全国の各都道府県支部で順次展開！

赤十字防災セミナーの特色は地域密着・町内会（自治会）から小学校区程度を基本区域に、その範囲の住民を対象に実施します。プログラムの中から自由にカリキュラムを選んで、ニーズに応じた講習が受けられるのも利点です。主なカリキュラムは、①災害・防災についての考え方や災害別の想定被害などから、日頃の備えの重要性を学ぶ「災害への備え」、②被災者の経験談を通じて災害を体験し、被災の具体的なイメージを深める「災害エスノグラフィ」、③地域内の防災資源や危険場所などを地図に明記し、被害軽減のために行うことをグループワークで検討する「災害図上訓練（DIG）」、④身近にあるものを用いた手当てや、次救命措置など

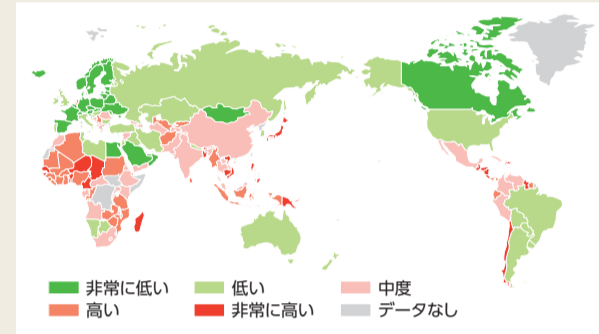
地域に密着、災害発生時のリーダー層を育てる

赤十字防災セミナー

今年4月から全国の各都道府県支部で順次展開！

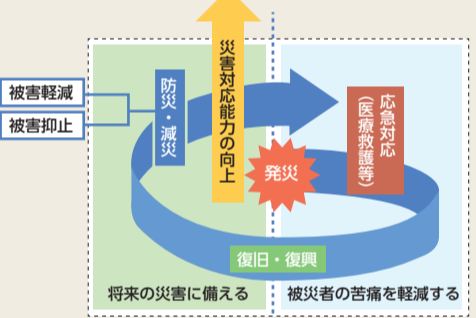
一昨年から先行的に各都道府県支部で行ってきたセミナーでは、「地域に住む災害弱者を知ることから始める」との感想が出される一方、「橋が通行止めになったら、指定された避難所に行けない」と、指定された避難所に行けないなどの課題も明らかに。またセミナーは、地域の訪問看護事業所の職員に向けて実施（広島県支部）したり、社会福祉協議会と共同で開催（高知県支部）など、行政や関連機関との連携強化にもつながっています。

世界の自然災害リスク



国連大学の「世界リスク報告書2016年版」によると、日本の自然災害リスクは171カ国中17位。先進国の中では唯一、最上位の「リスクが非常に高い」に区分けされている

災害対応の仕組み



防災・減災の取り組みが地域の災害対応能力を向上させ、将来の災害発生時の被害の軽減や抑止につながっていきます。



冒頭の授業風景は、香川県丸亀市立城地小学校4年2組で昨年行われたときの様子です。この日は「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用し、避難時に



一人一人が考ええる参加型授業。一人一人が考ええる参加型授業が来るんだから、「着だよ」「津波が来るんだから、被災者も必要かも...」。

「まもるいのち ひろめるぼうさい」を話すまで、じっとして聞いていたんだけど...先生の言葉を指示でメモしていた防災授業。まもるいのち ひろめるぼうさい。子どもたちは、すでに座ったまま目を閉じ、時間が過ぎるのを待ちます。沈黙の時間は100秒。『ちよと長かたと思ふ人』という問いかけに、ほとんどの子どもが手を挙げました。実はこの100秒は、東日本大震災で揺れが続いた時間です。それを知らされると、子どもたちの中に驚きの表情が広がりました。

全国各地で開催するイベントを一部紹介！

支部	開催日時・場所・内容	支部	開催日時・場所・内容
徳島	3/11(土) 12:00~16:00 ◎おとな・子ども ◎エスノグラフィ ◎防災エスノグラフィ ◎災害図上訓練など	鳥取	3/25(土) 26(日) ◎第42回生徒まつり ◎パネル展示など
香川	3/11(土) 10:00~15:00 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会など	福島	3/11(土) 10:00~17:00 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会など
愛媛	3/11(土) 10:00~15:00 ◎おとな・子ども ◎エスノグラフィ ◎災害図上訓練など	高知	3/5(日) 10:00~16:00 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会など
山形	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	秋田	3/5(日) 10:00~17:00 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会など
福島	3/11(土) 11:00~15:00 ◎おとな・子ども ◎エスノグラフィ ◎災害図上訓練など	宮城	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
山梨	3/11(土) 10:00~14:00 ◎おとな・子ども ◎エスノグラフィ ◎災害図上訓練など	群馬	3/5(日) 10:00~15:00 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会 ◎オリーブ博覧会など
茨城	3/11(土) 11:00~15:00 ◎おとな・子ども ◎エスノグラフィ ◎災害図上訓練など	栃木	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
新潟	3/11(土) 10:00~14:00 ◎おとな・子ども ◎エスノグラフィ ◎災害図上訓練など	富山	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
石川	3/11(土) 11:00~15:00 ◎おとな・子ども ◎エスノグラフィ ◎災害図上訓練など	福井	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
岐阜	3/11(土) 10:00~14:00 ◎おとな・子ども ◎エスノグラフィ ◎災害図上訓練など	山梨	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
長野	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	長野	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
山梨	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	山梨	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
静岡	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	静岡	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
愛知	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	愛知	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
岐阜	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	岐阜	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
愛知県	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	愛知県	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
京都府	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	京都府	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
和歌山	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	和歌山	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
鳥取	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	鳥取	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
徳島	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	徳島	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
香川	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	香川	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
愛媛	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	愛媛	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など
高知	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など	高知	3/11(土) 10:30~14:00 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示 ◎パネル展示など



写真メッセージを熊本に（福岡県支部）。赤十字職員やボランティアらが被災地への応援メッセージが書かれた写真を集め、旗に印刷、熊本へ送ります。

全国に広がる「私たちは、忘れない。」

期間中、街中で「忘れない。」プロジェクトを目にすることも。その一部をご紹介します！

バッジ着用
街で見かける店員や事務員が「忘れない。」バッジを着用しています

ステッカー
「忘れない。」ステッカーを付けた営業車が街中を走ります

パネル展示
災害を体験された方々の思いをパネルにして展示します

初開催！ ユースボランティア対象に広報研修会

石川県

石川県支部は1月14日、日赤ユースボランティア(青年奉仕団)対象の「RCY(赤十字ユース)リポーター研修」を初めて開催。石川県青年奉仕団、金沢星稜大学学生奉仕団、金沢医療系学生奉仕団から29人が参加しました。



参加者は、自分たちの言葉で赤十字ボランティアの魅力をもとめ発表

「RCYリポータープロジェクト」を平成29年1月から立ち上げている同支部では、ユースボランティアがFacebook上で、赤十字やボランティアについてレポートする予定です。今回の研修は同プロジェクトの一環として企画されたもの。参加者はワークショップや実習で、内容が相手に伝わりやすくなる記事の書き方や、魅力的な写真の撮り方などを楽しく学びました。

海上保安部の巡視艇で救護訓練を実施

大分県

大分地区石油コンビナート等特別防災区域総合防災訓練が、1月27日に25機関・約1800人が参加して行われ、大分県支部は大分海上保安部と連携して傷病者の救出・救護などの訓練を行いました。



潮流による揺れ、風、大きなエンジン音など特殊な環境下の船上活動には、より慎重な対応が求められます

同支部は、平成26年10月に大分海上保安部と相互協力に関する協定を再締結しています。今回の連携訓練は、再締結後に行われた初の実働訓練。日向灘沖を震源とした強い地震により、コンビナート沖の海上係留施設に傷病者が孤立したという想定の下、日赤救護班は大分海上保安部と共に、巡視艇「せきかぜ」で傷病者を救出し、船内で医療救護にあたりました。

平和な今こそ学びたい 赤十字原則と国際人道法

神奈川県

神奈川県支部は2月5日、赤十字7原則と国際人道法を学ぶ研修会を開催しました。青少年赤十字(JRC)高校生メンバーや赤十字奉仕団員などが対象で、62人が参加しました。



赤十字の歴史の学習は「赤十字の父 アンリー・デュナン」の絵本を朗読

研修では赤十字の歴史について学んだ後、7原則(人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性)をテーマにした寸劇をグループごとに創作し発表。またケーススタディーを通じて、国際人道法が実際の国際紛争の現場でどう適用されるのか、理解を深めました。参加者からは「(日本は)平和だからこそ、国際人道法について考える必要があると思いました」などの感想が出ました。

足利赤十字病院が「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」に推奨

栃木県

足利赤十字病院が1月31日、海外からの渡航者が安心して受診できる病院としてジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨されました。JIHは、政府主導の下、一般社団法人Medical Excellence Japanが審査したもので、今回は全国28病院が推奨されました。



海外からの医療視察団なども積極的に受け入れています

同院の推奨にあたっては、英語や中国語の通訳や、外国人看護師が勤めていることなどが評価されました。小松本悟院長は「外国人向けの医療サービスは需要が増えている。国際的な視点を持ってより良い医療を提供できるよう今後も努めていきます」と抱負を語っています。

救え！ 小さな命 シエラレオネ看護師集団研修

熊本県

熊本赤十字病院は1月17日から27日まで、シエラレオネ共和国の看護師ら6人を招き、小児看護技術研修を実施しました。



小児科医から心肺蘇生指導を受ける研修看護師たち

同国は、5歳未満児の死亡率が12%を超えるなど、世界で一番寿命が短い国。日本赤十字社は2013年からJICA(独立行政法人国際協力機構)と連携し、同院から看護師を派遣するなど、シエラレオネの小児医療を支援しています。今回の研修はこの支援策の一環として取り組まれたものです。

研修では、日本の看護体制や感染対策の講義、小児病棟での実習に加え、研修内容をシエラレオネでどう役立てるのかの検討会も行われました。

雪まつり支える奉仕団のあったか炊き出し

北海道

北海道内各地で開催されている雪まつり。その縁の下の力持ちとしてイベントを支えているのが赤十字奉仕団のメンバーです。札幌と旭川の中間に位置する美幌市で開催された「美幌雪んこまつり」(2月4、5日)では、メインとなる大雪像を作る陸上自衛隊美幌駐屯地の隊員のために、同市赤十字奉仕団が2月1日に豚汁の炊き出しを行いました。



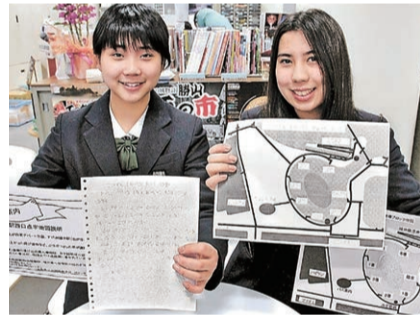
豚汁で体も心もホカホカに。作業のラストパートに力が入ります

この炊き出しは毎年行われていて、今年は団員13人が参加。寒い中で作業する隊員らに、「お疲れさま」と湯気の立った温かい豚汁と団員手作りの漬物が振る舞われると、隊員からは「おいしい!」と笑顔がこぼれました。

足羽高校 JRC部が駅周辺の点字地図を作成

福井県

福井県立足羽高等学校のJRC(青少年赤十字)部は、福井駅西口広場の点字地図を作成。2月1日、福井市おもてなし観光推進課に地図25セットを寄贈しました。駅西口にある観光案内所に置かれ、視覚障害者に配られます。



部員たちは昨年6月、駅西口での視覚障害者体験をきっかけとして、地図の作成に至りました

地図はJRC部の4人で作成。駅などの建物や点字ブロックの場所が立体的に表示されており、点字で書かれた説明文もセットになっています。部長の永田サチエさん(3年生)は、「視覚障害者の方の街歩きに、この地図を活用してほしい。助け合いの気持ちが広がるきっかけになってほしい」と話しています。

院内で初の防犯講習会 不審者対応を想定

北海道

清水赤十字病院(上川郡清水町)で1月25日、不審者が院内に侵入したことを想定した初めての防犯講習会が行われました。



不審者の動きを封じるさすまたを院内に設置し、「警察官立ち寄り所」の看板も掲げました

障害者施設での殺傷事件(神奈川県相模原市)が昨年発生し、医療機関を狙った事件も相次いでいます。こうした中、いざというときに患者やその家族、職員自身の安全確保を図れるようにすることが今回の講習の目的。地元警察署の協力の下、さすまたを使った不審者の取り押さえなどを訓練しました。参加した女性職員は「相模原での殺傷事件後、十勝でも不審者が病院へ出入りするといった事件がありました。初めての講習でしたが、護身術なども教えてもらい参考になりました」と話しています。

知って良かった!

日赤のドクター&ナースが教える 健康豆知識

③③ 女性に多いドライアイ 早めの受診で悪化を予防

さいたま赤十字病院 眼科部長 石井清



目の表面を覆っている涙は、目を守る大切な役割を果たしています。この涙が減少することで、目が乾いてしまう状態がドライアイです。初期段階では、光をまぶしく感じる、ごろごろ感がある、疲れ目といった症状ですが、悪化に伴って痛みを感じたり、目がかすんできたり、見えにくくなったりという人が増えてきます。涙の減少により、カサカサになった目の表面に傷がついてしまうのが原因です。

ドライアイになる人の圧倒的多数は女性です。というのも、女性は20歳過ぎから涙の量が徐々に減少してしまうからです。中高年女性の約半数は、ドライアイの自覚症状があるといわれています。一方男性は70歳代くらいまで涙の量は安定しており、ドライアイを訴える人はそれほど多くありません。

予防法ですが、涙の減少を食い止める根本的な術は見つかっていません。目の乾燥を防ぐため、目薬で潤いを与えるなどの方法しかないのです。ただし、涙が少なくなっても、症状が悪化するかどうかは環境にも左右されます。エアコンを効かせて湿度が足りないような部屋では、目も乾燥しがちに。パソコン画面やテレビの見過ぎも、涙の分泌を促すまばたきの減少につながり、症状の悪化を

招くので注意してください。

涙は「油層」「水層」「ムチン(粘液)層」の三層構造からなっています。どの層も目を守る上で大切ですが、最も内側のムチン層には涙を目の表面にためておく役割があります。ドライアイの患者さんに対しては目薬でこのムチン層を修復。眼球に付いた傷を治したり、傷を付きにくくする治療も行います。なお、まぶしさを感じたり、かすんで見えるなどの症状は、緑内障や白内障でもおこります。ドライアイだと思ったら別の疾患だったということもありますので、違和感を感じたときは、早めの受診をお勧めします。



ドライアイの方は、目に入った花粉が涙で洗い流されないため、花粉のアレルギー反応が強く出てしまいがちです。早めの手当てを

さいたま赤十字病院
〒330-8553 埼玉県さいたま市中央区
新都心1番地5
TEL 048-852-1111 (代表)

血液事業本部が 血液センターと連携し 災害対応訓練



日本赤十字社の血液事業本部は2月9日、職員の危機意識の醸成や災害時の対応手順の確認などを目的として、南海トラフ巨大地震発生を想定した災害対応訓練を血液センターと連携し実施しました。

本社の血液事業本部には、全国の各ブロック血液センターから被災状況などが逐一報告されてきました

巨大地震発生状況下においても血液事業を継続していくため、訓練では職員および家族の安否や被災地域周辺の血液センターの状況確認のほか、交通機関や通信環境の情報収集、献血された血液の搬送方法や血液製剤の医療機関への供給方法に関する協議などを行いました。

地域の献血支える献血バス「宝くじ号」 日本宝くじ協会から8台

一般財団法人日本宝くじ協会から2月15日、愛の献血車「宝くじ号」(献血バス)8台が日本赤十字社に寄贈され、贈呈式が日赤本社(東京・港区)で行われました。

宝くじ号の寄贈は、宝くじの収益金を基にした同協会の社会貢献事業です。昭和42年から続けられており、総寄贈台数は今年度分を含めて479台になりました。今回寄贈された8台は、北海道と7つの県に配備され、イベント会場や駅前、学校などの献血会場で役立てられる予定です。



贈呈式では同協会の横山洋吉理事長から、日赤の近衛忠輝社長に車両のキーが手渡されました。

常任理事会 開催報告

平成29年2月17日、本社において平成28年度第10回の常任理事会が開催されました。

1 理事会及び第89回代議員会に付議する事項について

(役員の選出、平成29年度事業計画及び平成29年度収支予算)

審議の結果、理事会及び第89回代議員会に付議する事項については、原案のとおり本年3月17日開催の理事会及び第89回代議員会に付議することが了承されました。

また、予算の補正にかかると、12月及び1月の社長専決事項等の決定状況について報告しました。

また、予算の補正にかかると、12月及び1月の社長専決事項等の決定状況について報告しました。

Voice & プレゼント

Voice 赤十字 NEWSにお寄せいただきました読者の皆さまの声をお届けします。

- いつもの暮らしに感謝しつつ、シリアをはじめ悲惨な状況に陥っている世界中の人に自分が何をすべきか考えさせられました。(森川さん・広島県)
- 高校生が高齢者を激励の記事は未来を担う若者の有志がみられ、嬉しい気持ちになりました(Kさん・埼玉県)

プレゼント

クロスハンドタオルを3名様にプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字 NEWS 3月号を手にした場所(例/献血ルーム)
- ⑥3月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(いくつかでも)
 - Ⓐ今月の出会い Ⓑ被災者や支援に携わった人の声 Ⓒ災害の教訓を未来へ生かす
 - Ⓓ「私たちは、忘れない。」イベント情報 Ⓔエリアニュース
 - Ⓕ血液事業本部 災害対応訓練 Ⓖ日本宝くじ協会献血バス8台寄贈
 - Ⓗ平成28年熊本地震災害 義援金情報 ①健康豆知識 ②常任理事会開催報告
 - ⒼVoice&プレゼント ④「海外たすけあい」に全国から6.3億円
 - ⓂI am #NotATarget ⑨人道支援の現場から
- ⑦赤十字 NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしています。



応募先 ● 郵 送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 3月号プレゼント係
FAX/03-6679-0785
メール/koho@jrc.or.jp(件名「赤十字NEWS 3月号プレゼント係」)

応募締切 ● 3月27日(月)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

平成28年熊本地震災害

日本赤十字社ウェブサイト (<http://www.jrc.or.jp>)

義援金の受付・送金状況

【受付】 278億3,871万6,325円(2017年2月14日現在)

【送金】 277億7,748万1,173円(2017年2月28日現在)

※日本赤十字社にお寄せいただいた「義援金」は、手数料などはいりなく全額が被災地に設置された義援金配分委員会を通じて、被災者に届けられております

※関連事務費については、活動資金(日赤を支援くださる方々からの会費や寄付金)により対応しております



義援金の受付が2018年3月31日(土)までに延長となりました

引き続き、皆さまのご支援を宜しくお願い申し上げます。

活動資金ご協力のお願い 人間を救うのは、人間だ。

大きな災害などが起きると、全国から日本赤十字社に寄せられる義援金。義援金は被災地の義援金配分委員会を通じてその全額が被災者の方々に届けられます。

一方で、被災地での医療救護活動や被災者の皆さんに配布される毛布や日用品セットといった救援物資には義援金は一切使われていません。日本赤十字社のごような災害救護活動や国際救護活動、青少年への防災教育活動、救急法の講習など、人間のいのちと健康、尊厳を守る人道支援活動はすべて皆さまからのご寄付である活動資金によって成り立っています。ご協力には以下の方法があります。

- ①お住まいのお近くの赤十字窓口から(全国47都道府県に支部を設置しています)
- ②口座振替による継続的な支援
- ③クレジットカードによる継続的な支援

詳しくは、本社パートナーシップ推進部(03-3437-7081)へお問い合わせください。または、日赤ホームページをご覧ください。



日赤 活動支援 検索

「海外たすけあい」へ全国から6.3億円

～ご協力ありがとうございました～ 支援の届きにくいところにも救いの手をさしのべるために

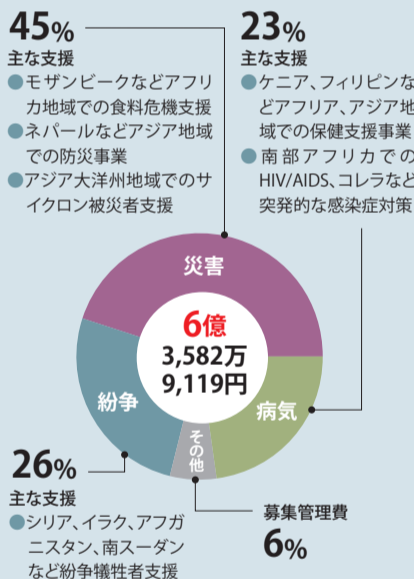
格差や民族、宗教による分断が取りざたされる昨今の情勢のなか、赤十字はそれらの壁を越えて、いかなる状況下でも誰もが安心して暮らせる世界を目指して活動しています。昨年12月1日から25日まで行われた「海外たすけあい」募金キャンペーンには、全国から6億3582万9119円の寄付が寄せられました。同キャンペーンは、紛争や災害などに苦しむ世界の人々を支援するため、日本赤十字社とNHKが毎年共催しているもので、今回が34回目。皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

現在、人道支援を必要とする人は世界に約1億2500万人。また、故郷を追われ難民や避難民として暮らす人は第2次世界大戦後最多の6530万人に膨れ上がっています。その半数が子どもたちだといわれています。

こうした人道危機に立ち向かうため、今回寄せられたご寄付は、日赤が取り組む人道支援活動(①紛争で苦しむ人々、②災害で苦しむ人々、③病気で苦しむ人々—の3分野)に活用されます。

平成28年度

海外たすけあい寄付総額使用計画



隠れた災害。緊急アピールへの対応にも活用

災害などへの対応が当該国内だけでは困難な場合、その国の赤十字社の求めに応じて国際赤十字・赤新月社連盟や赤十字国際委員会が世界に発する支援要請が「緊急アピール」。「海外たすけあい」で集まった資金は、こうした緊急支援にも使われています。

1年間に要請される緊急アピールは約45件。昨年4月～今年1月には、ハイチのハリケーン被害やケニアでの干ばつ対応など26カ国37件の緊急アピールに応え、救援物資の配布や医療支援などを行いました。世間の注目を集めないなどの国のどのような災害であっても、助けを求める声に応えるのが私たちの方針。アフリカや中南米など支援が集まりにくい地域では、日赤からの支援が欠かせない状況になっています。

日赤の特色を生かした人員派遣にも

赤十字の人道支援は、各国の赤十字が政府の補助機関として展開しています。しかし、紛争当事国や途上国の中には赤十字組織が脆弱で、専門分野の人材が不足しているところも。全国に92の病院を持ち、医療・保健分野で多く



現地スタッフの声

「一人でも多くの命を守りたい」

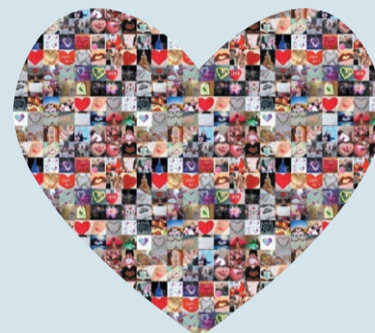
ネパール赤十字社 アンジャン・アチャルヤさん

もっとも弱い立場の人を支援するという使命に共感し、赤十字に入ったのが8年前。2015年に発生した大地震の救援活動では、被災者の苦しみを目の当たりにし、人々を支援する使命感をあらためて感じました。

現在私が関わるコミュニティー防災事業は、住民の災害対応能力を高めていくもの。一人でも多くの住民の命を守るよう、職員・ボランティア・住民が一丸となって取り組んでいます。

※日赤は「海外たすけあい」の資金を活用し、ネパール赤十字のコミュニティー防災事業を2012年から支援しています。

赤十字・赤新月・レッドクリスタル—赤十字は国境・宗教・人種の隔てなく共に活動しています



ユースボランティアが中心となって企画したInstagramにハートマークを投稿しよう！「#TasukeaiAction～あなたの写真で世界をつなぐ～」キャンペーンで集まった写真のコレクション

「たすけあい」をありがとう！

ジェッサ・マエ・P・カブニヤスさん (10)
ドウエニヤスさん (10)



日本のみなさん、ありがとう

私たちはフィリピンのラワン小学校の生徒です。私たちの学校は、日本赤十字社から衛生キットと手洗い設備を支援してもらいました。そのおかげで正しい衛生習慣と病気の予防について学ぶことができました。(フィリピン保健医療支援事業)

■ありがとうメッセージの動画はYouTube日本赤十字社公式チャンネルからご覧いただけます。



■「海外たすけあい」の正式な報告は、特設サイトでお知らせします。



■国際活動の報告はメールマガジン「赤十字国際ニュース」でも行っています。ウェブページ (<http://archives.mag2.com/0000117537/>) で登録いただけます。



の人材を抱える日赤は、各国へ支援に必要な専門的な訓練を受けた職員を派遣し、これらの国の人道支援活動を支えています。

現在派遣されている日赤職員は、中東

やアフリカの紛争犠牲者支援、地震や台風などの災害復興支援、保健医療支援などに計18人(10カ国)。「海外たすけあい」募金は、こうした人員派遣費用にも活用されています。

中東紛争地で赤十字スタッフが相次いで殺害

～私たち援助者は攻撃対象ではありません。 I am #NotATarget～

アフガニスタン北部で活動中だった赤十字国際委員会(ICRC)のスタッフが2月8日に襲撃され、6人が死亡、2人が行方不明になりました。また、同日にはシリアでもシリア赤新月社のスタッフの1

人の命が奪われ、7人のスタッフ・ボランティアが負傷しました。人道支援活動への攻撃は、支援が必要な紛争犠牲者を追い込み、より多くの命が奪われる結果を招きます。

国際赤十字は、国際人道法に反するような攻撃に抗議。「赤十字をはじめとする中立の支援団体は攻撃対象ではない」と強く訴えています。



©ICRC



赤松 直美 Naomi Akamatsu

国際赤十字・赤新月社連盟
アジア・大洋州事務所 組織強化担当
(マレーシア・クアラランプール)

アリスの謎解き作業

『不思議の国のアリス』(ルイス・キャロル作)にこんな場面があります。「ここからの道を行けばいいか、教えていただきたいんですけど」とアリスが聞くと、チェシャ猫が答えます。「それは、君がどこへ行きたいかによるね」

赤十字の組織強化の仕事は、まさにこの問いをひもとく作業です。支援を必要としているのは誰か、何が必要か、そしてその支援を届けるためにどのような戦略と体制を整える必要があるのか…

これまで、雪深いアフガニスタン、島が点在するキリバス、隣町まで5時間かかるモンゴルの大草原など、さまざまな地域の赤十字社の

※赤十字事業の趣旨を理解され、社員申し込みを行い、毎年一定額を拠出して事業を支えている方

人道支援の現場から

組織強化を担当してきましたが、どんなにアクセスが困難な地域にも赤十字の社員*とボランティアがいました。草の根の声を一番良く知っている彼らの声なしには、このアリスの謎解き作業は実現不可能です。

3年間二人三脚で仕事をしてきた社から「どこに行きたいのか、自信を持って道を見いだせるようになった。社員・ボランティアがその道しるべだった」と言われたときに、あらためて一昼夜では終わらない組織強化の仕事の醍醐味と大切さを実感しました。それと同時に、「活動の中心であるボランティア」の存在と「社員を持って組織する」赤十字の神髄に触れたように思います。